

事業概要票

事例NO. 70

事例キーワード

景観配慮(全面緑化)
山腹崩壊地復旧

事業名		予防治山事業	景観配慮(全面緑化) 山腹崩壊地復旧
事業担当機関		仙北地域振興局農林部森づくり推進課	
工事期間		H26.9～H27.3	
実施場所		大仙市協和境字唐松岳地内	
事業概要	工事費	4 1 百万円	
	工事概要	山腹工0.15ha （補強土植生法枠工A=2,400m2）	
	事業の目的	近年の大雨、融雪の影響により山腹斜面の崩落や浸食が発生し、保安林機能の低下が懸念された。また、崩落土砂は斜面下部を横断している農道及び一級河川淀川に流出が確認された。 このことから、保安林機能の回復及び重要保全対象の保護を目的とし、山腹崩壊地の復旧を行うため、治山対策を実施した。	
環境配慮の内容	当地区は、多くの観光客が訪れる唐松神社に近接していることや、山腹斜面下部に公園や親水護岸が整備され地域住民の憩いの場として活用されていることなどから、山腹崩壊地の復旧に当たっては、景観に配慮しつつ森林への早期復旧を図る必要があった。 【工法の選定】 ◇山腹斜面が40～50° の急峻な地形を呈し斜面長が60～80mと長大であったため、緑化基盤材の流亡が懸念され、長期間緑化が期待できないことから山腹基礎工が必要。 ◇周辺に唐松神社や公園、親水護岸が整備されていることから周辺景観に配慮する必要があり、コンクリート構造物などの威圧感を与える工法は適用出来ない。 【採用工法】 格子状の構造物を設置することで、植生の基盤となる客土等を保持して長期間安定した緑化が期待でき、法枠材に改良土（短繊維）を使用することにより、法枠面も含む全面緑化が可能で周辺景観に配慮出来る「補強土植生法枠工」を採用		
施工後の状況	・ 山腹斜面の復旧により、崩落や浸食の危険性が低下し保全対象の保護が図られた。 ・ 山腹斜面を全面緑化したことにより、周辺景観との調和が図られた。		

図面、写真、説明



図面、写真、説明

